

あばっさ

アウラ語で
地の精霊
vol.19

HOW TO HELP

<年会費>大人: ¥5,000 18歳未満: ¥3,000

・郵便振替 00140-3-144187 熱帯森林保護団体

・三井住友銀行 東京中央支店
(普)7066247 熱帯森林保護団体

* 銀行からお振込の方は、
お名前とご連絡先を別途必ず当団体までお知らせください。

特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体

Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20

TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913

xingu@rainforestjp.com www.rainforestjp.com

アマゾンの森を守っている 私たちを助けてください!!

当団体の運営資金が底をつきそうな
厳しい状況にあります。

昨年は収入より支出が多く、2015年の繰越金で賄いました。

長年頂いていた助成金も打ち切れ、
他の助成金も減額されました。

「消防団事業」と「養蜂事業」の支援事業は
確実に成果をあげています。

酸素を創っている森を守る私たちに、ちよつとのお金でも
沢山でも支援して頂けたら嬉しく、ありがたく励みになります。

皆さまのご協力、ご賛同があつてこそ
アマゾンの自然が残ります。

どうぞ、どうぞお助けのほど、宜しくお願ひ申し上げます。

地球という星に間借りしている人間たちが、一部の人の欲で大変な方向へと進んでいるように思えます。アマゾン支援を続けて28年が経ち、ジャングルで平和に暮らしていたインディオの人たちにも大きな変化が起きています。しかし、自然に対して畏敬の念を抱き、足る事を知った営みは継承しているように映ります。

経済優先の論理は自然を壊し、物質的な豊かさを得ますが、人間の身の丈を越し、心が置き去りになり彷徨うことにもなりかねません。正にいま私たち文明社会が抱える様々な負の出来事が、未来に対して警鐘を鳴らしているのではないのでしょうか。

支援している「消防団事業」はインディオの若者が主体性を持ち、森を火から守るためにプライドを持って命がけで向き合っています。昨年、シンゲー地域で約7,000ヶ所火災が発生しましたが、「消防団事業」を実施しているカヤポ地域では火災が広がらなかった。この火災の原因も元を正せば、物質文明を支えるためにジャングルを壊し牧場や大豆畑に様変わりしたことにあります。全てをお金で換算し、それに伴う利権や権力で自然の法則が崩れていきます。しかし、貨幣制度が完全に確立していない地域を守るには、資金が必要だと言う矛盾をいつも抱えていることも事実です。

私たちはこの星以外では生きていけません。次世代に何が大切な事なのかを伝える役目があります。微力ながら、人として恥じない生き方をアマゾン支援を通し学び、支援事業に精進して参ります。

6月に31回目のアマゾンへと出発し、8月にジャングルの「蜂蜜」を背負って戻ります。

(南 研子)



シンゲーインディオの祭り



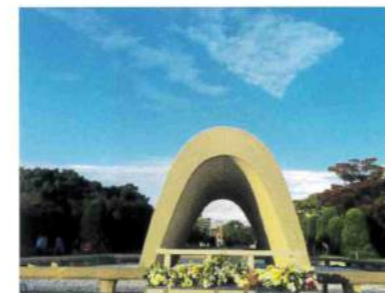
残っている森と伐採された森の跡地 Photo: Satomi Shimogo

ブラジルアマゾンの森林破壊が前年より29%増加!!

アマゾンの熱帯雨林の2/3を占めるブラジルアマゾンの森林破壊は、NASA衛星画像の分析によると過去8年間で最大となり、前年より29%増の7989平方kmで2012年に比べると75%増加した。

最大の原因は穀物メジャーの大企業カーギル等のアグリビジネスによる大豆生産の拡大によるものだという。

<NGO「ウータン・森と生活を考える会」の記事から抜粋>



“広島原爆体験から、平和への想い”を語る講演会

広島原爆投下から70年余り経ちます。長崎と合わせて原爆体験は日本人だけです。あれだけ悲惨な出来事があつても、今もなお戦争は終わりません。それどころか、益々国防の名の下に日本も軍事費の拡大を図ろうとしています。いつも犠牲になるのは一般の人々です。

私たちごく普通の人間は、人生を穏やかに暮らしたいと思ひ生きています。ごく一部の力ある人間の意志で政が進む怖さを感じますが、その人々を選んだ責任も私たち一人一人にあります。悲惨な出来事も時間が経つと薄らぎ、忘れ去られていき、特に戦争経験が無い世代は、現実にはこの日本で戦争があつたことすら理解できないと思ひます。しかし、私たちは過去の惨事から「人間とは何か?」を学ばなければいけないのではないのでしょうか。

原爆投下の日、正にあの場所に居た、90歳になる河野昭人さんの体験談を聞かせて頂ける催しを5月28日に行います。私たち団体RFJはひろしま支部を2003年に立ち上げ2度にわたり、アマゾンのジャングルからカヤポ族長老ラオーニを広島に招待しました。一度目は奇しくも原爆投下から60年目で、ラオーニは慰霊碑の前で「沢山の御霊が天に登っていく姿が見えた」と語っていました。河野さんは裏方で、私たちに多岐に渡りご協力して下さっています。

是非、多くの方に彼の生の声を聞いて頂きたく、そしてそのエネルギーを絶やす事無く次世代に伝えていきたいと思ひます。

<講演についての詳しい内容は同封のチラシをご参照ください>

RFJの研子さんを通してアマゾンのジャングルと繋がって27年程になります。会員の皆さんにむけてKAMALAの絵やカヤボ族のボディペインティング文様をデザインしてRFJサポートの為にオリジナルTシャツやバッグを制作してきました。遠いアマゾンでどんな人達がどんな風に暮らしているのか何も知らないまま始めたTシャツ作りでしたが、今では強い繋がりと懐かしさと尊敬の念を感じています。

特にカヤボ族のボディペインティングの文様には、強く惹きつけられます。これは、ジャングルの植物の実ウルクン(赤)やジェニパボ(黒)から採れる色素をオイルで練って細く削った枝で外ウのように体に描きます。魔除けや戦いや儀式の為に、また色素が虫除けにもなるこの文様は、森水地や動物の精霊をモチーフにして、余計なものを削ぎ落とし簡素で力強い線と面でシンプルに描かれながらも圧倒的な迫力があります。文様を原稿作りのために描き直していると、その持つエネルギーが伝わってきて何かに守られ自分にも力が湧いてくるような不思議な感覚になります。ボディペインティングは、描き手や描かれる者や描く時やその目的によって有機的に変化して、その時だけの『今』となる。子供達は母親に描いてもらう間中じっと動かずに我慢して、顔や体に勇ましい文様が現れる。さしずめ日本なら仮面ライダーかウルトラマンかもしれないけれど、アマゾンの子供達も自慢気で嬉しさに違いないと私は勝手に思っています。青年達はお互いに描き合い、敵や動物と対峙する時の装束です。ジャングルの火災のための消防団の青年達の頬にも文様は描かれていたと研子さんから聞きました。政府やジャングルを荒らす者達と戦う時も顔や体にペイントし精霊の力を身に着けます。目に見える世界と見えない世界が同じレベルで生活の中に在るジャングルは、システムの中で本来の感性を失いつつある私達に、生きる為の酸素だけではなく根源的な生命の在り方を伝えていて感じます。



明日への不安ではなく今日の今すべき事を知りそして感謝する。

アマゾンの全てを代表して長老ラオーニは森を守るために遠い日本に3回も訪れ『ジャングルの保護』を訴えると同時に『全ては自分の中にある』と教えてくれました。試行錯誤しながら形にして身近なものに置き換え、アマゾンからのメッセージを伝えるお手伝いができるのをとても嬉しく思っています。夏に向けて新作をRFJとコラボで計画中です。待っていて下さい。皆さんにも森とインディオのエネルギーを近くに感じて欲しいです。

そして遠いアマゾンジャングルの精霊さんやインディオの方達に森を守る思いを寄せたいです。いずれ私も研子さんから聞いた、『ジャングルにゴー———と音をたてて沈んでゆく真っ赤な夕陽』を見に行きたいと思っています。



右下: 蛇や豹のボディペインティングを施した、インディオの男性たち
真ん中: カヤボ族のボディペインティング文様(亀)
上: アマゾンシンガーの夕日



染料である植物の実
ウルクンとジェニパボ



Photo: Satomi Shimogo



おめでとう

2014年に来日した際、「自分たちの世代はペンと紙を武器に意見をアピールしていく。」と語ったラオーニの孫、ベポー・メウティレがブラジルのゴイアニア連邦大学に合格しました！

RFJニューズレター“あぱっさ”の編集作業のお手伝いを始めて今回で7号目。毎度てんやわんやで四苦八苦の編集・発送作業ですが今回こうして皆さまへお届けすることが出来ました。私は10年程前に高校の時の先生を通じて研子さんとお会いする機会を得て、今では公私ともにともお世話になっております。

2014年のラオーニ来日の際は、カメラをお供に彼らと数日ですが寝食を共にしました。ラオーニが私につけてくれたカヤボの名前は「アナペ」。なんだかかわいいその名前は“伝承する人”という意味があるそうです。名前をつけてくれる時、私の目の奥の奥を覗きこむように見ていたラオーニの瞳を私は生涯忘れることはないでしょう。

行動を共にし、それまで写真や想像の向こう側だったインディオの存在が、「今日も元気にご飯をいっぱい、たらふく食べてるかなー」と想いを馳せるような、ちょっと遠くに住んでる友人のような存在に感じるようになり、それと同時に、改めて彼らが直面している現実を考えるとほがゆさと申し訳なさ、そして疑問と悲しさでいっぱいになります。

ラオーニ、ブライリ、ベポーの3人の来日最後の東京講演の際、インディオの現状がまとめられた映像を見ました。スクリーンには切り倒される木々、燃えるジャングル、巨大な牧場、政治家に訴えるラオーニの姿が次々と映し出されます。今までに何度も目にしたその映像でしたが、彼らと一緒に空間で改めて見ていると「3人は今からあそこに帰るんだ。」と痛感し、胸がえぐられるように涙が溢れてきたのを覚えています。優しく愉快で時に厳しく強い彼らを一部分でも身近に感じるようになって、やっとわかる現状の辛さ。ラオーニが何度も話す、「全ての人に大切な森を守ってほしい。」というシンプルな訴えが心に刺さりました。

研子さんとお会い、さらに普通では出会えないであろう人達と繋がった出会いを通し、アマゾンとブラジルと日本、そして世界と日常生活の間で揺れ動く気持ちを感じる毎日です。インディオのようにしなやかに強い芯の通った心を持って生活を送れるようになるのははてさていつになることやら。まずは研子さんや事務局スタッフのヤッピーさんから学んだ、「見えにくくなっていくばかりの物事をシンプルに捉え、日々切磋琢磨していく。そしてご飯を美味しくいっぱい食べる。」という姿勢で私も日々を過ごし励んで行こうと思います。

当団体設立当初から応援してくれている皆様、熱き思いのサポート。そして面倒なニューズレター制作の困難な時期に支えのくれた方々、お二人からのメッセージです。

2016年会計報告

2016年1月1日～2016年12月31日

<収入の部>

Table with 2 columns: Item and Amount. Includes 2015 year-end balance, membership fees, donations, and interest.

<支出の部>

Table with 2 columns: Item and Amount. Includes local support, staff salaries, office expenses, and other costs.

2016年RFJ事業報告書

2016年支援金計 10,564,368円

- 1. 熱帯林保全事業
2. 経済自立支援事業
3. 先住民伝統文化継承事業
4. 医療支援事業
5. 現地視察諸経費
6. 雑費